

第1章

事業の総括評価

趣 旨

評価結果

総括評価

事業の総括評価

令和元年度 日本・韓国青年親善交流事業

I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和62年度に開始され、本年度は33回目の実施となった。

本事業は、日本と韓国の青年相互の理解と友好の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の理解と友好を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

以上の目的を達成するため、日本及び韓国の双方において、国家及び地方行政組織への表敬訪問、テーマを選

定した両国青年による合宿型ディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流やホームステイ、産業、文化、教育施設の訪問等、人的交流の重視を基本としつつ、毎年見直しを行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び韓国招へい青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修時と帰国後研修時に、能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

※参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①日本と韓国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか [1-(7)]」との問いに対して、日本参加青年は88%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか [1-(6)]」との問いに対して、韓国招へい青年は89%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

②日本と韓国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか [1-(8)]」との問いに対して、日本参加青年は88%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか [1-(7)]」との問いに対して、韓国招へい青年は85%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

③プログラムへの満足度

<日本参加青年>

訪問国プログラムの内容についての全体評価 [2-(1)] は、日本参加青年は96%が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の4（良かった）以上を付けた日本参加青年は、「地元青年との交流 [1]」が22名、「施設訪問 [2-(5)-1]」が22名、「ホームステイ [2-(7)]」が18名、「合宿型ディスカッション [2-(6)-1]」が16名であった。

「地元青年との交流」の評価が高かった理由としては、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可） [1-(1)]」との問いに対して、19名の日本青年が「韓国の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、韓国人の友人をつくるきっかけとなった「地元青年との交流」の評価につながったと考察できる。また、同様の問いに19名の日本青年が「韓国の社会事情、文化等に関心があるため」と答

えていることから、多様な施設訪問を通じて多角的に韓国の社会事情を学ぶことができたことが一因として考察できる。

<韓国招へい青年>

招へいプログラムの内容についての全体評価〔2-(1)〕は、韓国招へい青年は96%が5段階評価の4(良かった)以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の4(良かった)以上を付けた韓国招へい青年は、「岐阜県プログラム〔2-(6)〕」が26名、「課題別視察〔2-(3)〕」が25名、「ホームステイ〔2-(8)〕」が24名、「日韓青年親善交流のつどい〔2-(4)〕」が23名、「日本青年との都内視察〔2-(5)〕」が20名、「三重県プログラム〔2-(7)〕」が19名であった。

「岐阜県プログラム」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか(複数回答可)〔1-(1)〕」との問いに対して、9名の韓国招へい青年が「日本の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、韓国招へい青年は日本の地域文化や伝統文化に対して高い関心を抱いており、岐阜県プログラムを通じて日本の地方を体験できたことが一因として考察できる。

同様に「課題別視察」、「ホームステイ」の評価が高いのも、課題別視察を通じて日本の社会事情を見聞きし、ホームステイを通じて日本の文化に直接触れたことが日本に対する理解を深めることができたことと考察できる。

④事業参加による参加青年の将来への影響

<日本参加青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか〔1-(10)-1〕」との問いに対して、日本参加青年は92%が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち58%が5(とても役立つと思う)であった。

<韓国招へい青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか〔1-(8)〕」との問いに対して、韓国招へい青年は92%が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。

これらの評価から、本事業が参加青年の将来形成に大きく役立つことが考察できる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

「コミュニケーション能力」については、

3.8から4.5となり、0.7ポイントの増。

「異文化に対応する能力」については、

3.9から4.9となり、1.0ポイントの増。

「チャレンジ精神」については、

3.9から4.6となり、0.7ポイントの増。

「問題解決能力」については、

3.5から4.5となり、1.0ポイントの増。

「企画力」については、

3.5から4.1となり、0.6ポイントの増。

「マネジメント力」については、

3.3から4.0となり、0.7ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

伸び幅が最も大きかったのは、「異文化に対応する能力」と「問題解決能力」であった。「異文化に対応する能力」の向上の理由としては、韓国において様々な韓国青年等との交流やホームステイ等が用意されており、直接的な交流を通じて、異なる習慣や考え方に対応する能力の向上に大きな影響を与えたと考察できる。

また、「問題解決能力」は、派遣団における意見の相違や、訪問国活動中の突発的な環境の変化が生じた場合に、どのように対処すべきかを経験として身に着けることができたことが大きな要因と考察できる。

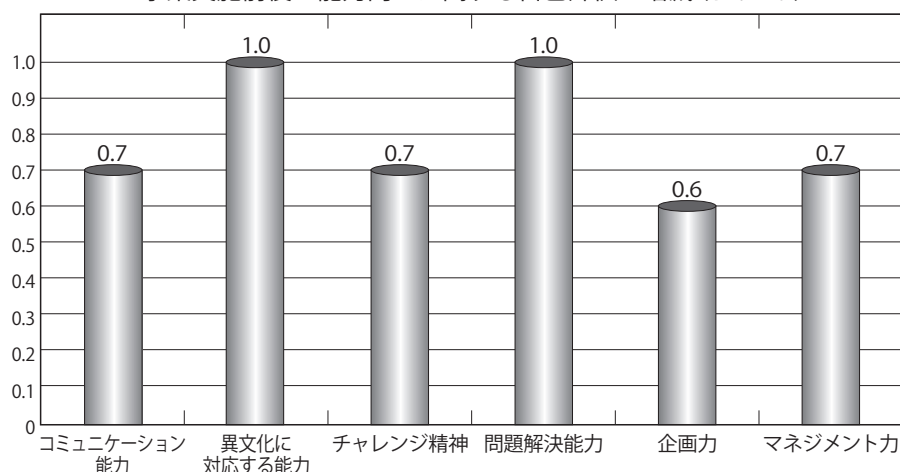
次に、「コミュニケーション能力」、「チャレンジ精神」、「マネジメント力」も大きい伸び率を見せた。

②社会貢献活動への意欲

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか〔1-(9)〕」との問いに対して、日本参加青年は88%が5段階評価の4(ある程度意欲を持った)以上を付け、高い評価であった。

一方、5段階評価の3(どちらでもない)や2(ある程度関心を持つようになった)と付けた日本参加青年も12%おり、本事業の参加を通じて社会貢献活動への意欲を大きく向上させるには引き続き検討の余地があると思われる。

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減（ポイント）



3. 韓国招へい青年の成果

①日本に対する印象の変化

「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか [3-(1)]」の問いに対して、韓国招へい青年は74%が5段階評価の4（良くなった）以上を付け、高い評価であった。また、その他の韓国招へい青年は3（変わらない）を付けており、「元々良い印象を持っていたため、特別変わった変化はなかった」というコメントからも、日本に対して好意的なイメージを持つ青年が多いことが分かる。

②事業に参加して得た成果

「この事業からどのような成果を得ましたか（複数回答可） [1-(4)]」の問いに対して、韓国招へい青年は27名

中19名が「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」を選択し、27名中15名が「人脈を拡大したり、多くの友人を得たりすることができた」を選択した。

③事業参加が将来に役立つと思うか

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」の問いに対して、韓国青年は96%が5段階評価の4（役立つと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

これらの評価からも、本事業が日本に対する理解の促進を図るだけでなく、交流プログラム等を通じて多くの友人を作ることができるプログラムであり、参加青年はそれを成果として捉えていることが分かる。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

<日本参加青年>

「事業全体をどのように総合評価しますか [1-(2)]」との問いに対して、日本参加青年は23名が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業をどのように総合評価しますか [1-(2)]」という問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年は23名が、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4以上を付け、多くの青年が本事業を高く評価していることが分かる。

日本参加青年からは「貴重な経験とかけがえのない

出会いが出来てすごく満足した」「韓国への理解を深めたのはもちろん、協調性やリーダーシップ能力も向上した」等のコメントがあった。

また、韓国招へい青年からは「次世代を担う青年が視野を広め、多様な考え方を受け入れる能力を育てられるプログラムだった」「たくさんの日本人に出会い交流することで理解しあえたのはもちろん、地域の事業や文化を知ることでもできて良かった」等のコメントがあり、そのような諸点を勘案してみると、概ね日本と韓国それぞれにおいて現地青年等との交流活動等の各種プログラムを通じて、両国青年相互の理解と友好の促進を図るとともに、参加青年の成長に良い影響があったものと結論づけられる。

以上の評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と韓国の相互理解と友好の促進」に関して、プログラム内容を含めて、日本参加青年及び韓国招へい青年が共に事業参加による効果の認識を示すなど、十分な成果を収めたものと評価できよう。